

「大阪サミットへの展望」 ジョン・カートン G20 リサーチグループ ディレクター

G20 リサーチグループのディレクター、ジョン・カートンが、大阪サミットで扱われる主要なテーマ、集中的に協議される重点問題領域、差し迫ったグローバルなチャレンジを語る

「Japan : The Osaka Summit」からの選択された記事の日本語訳。

<http://bit.ly/G20Japan>

2019年6月28日と29日に日本の大阪で開催される第14回G20サミットは、2008年にワシントンDCで初回G20サミットが始まって以来、2度目の10年間へと乗り出す。世界で3番目の経済大国である日本がホストを務める初めてのG20サミットである。今回のサミットは、2010年韓国、2014年オーストラリア、2016年中国サミットの成功に続き、G20を世界経済の中心として台頭してきているアジアへと戻す、という意味合いを持つ。2018年末のアルゼンチンでのG20サミットからたったの7カ月後の開催となる。

大阪サミットは、エスカレートする国際貿易と投資摩擦や、気候変動問題、急速なデジタル化と高齢化から生じる諸問題、人間の健康への脅威、低迷する経済成長と貧富の差の拡大、金融システムの脆弱性、そしてアジアやその他の地域での地政学的緊張の拡大、といった緊迫した難題に直面しながら開かれることとなる。なお、今回G20のメンバーとして集まる、国際システム上重要な位置を占める主要国や、相互依存度が高いメンバーの国々の支援抜きでも、主な国際機構と1940年代を起源とする国際秩序・規範が、独自にこれらのグローバルな諸問題に効果的に対応できる能力を備えているのか、という懸念の中、このサミットは開かれるのである。

大阪サミットは、6度のG20サミットを経験しているベテランであり、2016年に成功したG7伊勢志摩サミットのホストである日本の首相、安倍晋三が主催する。その他のベテランメンバーは、ドイツのアンゲラ・メルケル、中国の習近平、カナダのジャスティン・トルドー、インドのナレンドラ・モディ、トルコのレジェップ・タイイップ・エルドアン、アルゼンチンのマウリシオ・マクリ、そして2020年のサミットのホストを務める予定のサウジアラビアのムハンマド・ビン・サルマーン皇太子である。欧州委員会の委員長ジャン＝クロード・ユンケルと、欧州議会の議長ドナルド・トゥスクもベテランである。最近のリーダーとしては、韓国のムン・ジェイン、イギリスのテリーザ・メイ、フランスのエマニュエル・マクロン、南アフリカのシリル・ラマポーザ、インドネシアのジョコ・ウィドド、アメリカのドナルド・トランプ、イタリアのジュゼッペ・コンテ、オーストラリアのスコット・モリソンが数えられる。新顔はブラジルのジャイール・ボルソナーロ、メキシコのアンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドールである。

これらの首脳たちは、5月11-12日のG20農業大臣会合、6月8-9日の財務大臣・中央銀行総裁会議、6月8-9日の貿易・デジタル経済大臣会合、5月15-16日の持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合、そして大阪サミット自体と

同時進行する形で行われる、金融と保健に関する会合を、導くだろう。彼らは9月1-2日の労働雇用大臣会合、10月19-20日の保健大臣会合、10月25-26日の観光大臣会合、11月22-23日の外務大臣会合のかじを取る。

大阪で首脳たちは、日本が提唱するテーマである、自由で、開かれた、包括的で持続可能な「人間中心の未来社会」にフォーカスをあてるだろう。彼らは、貧富の格差を減らす共有型成長、「信頼に基づいた情報の自由な流通」のためのグローバルスタンダード、質の高いインフラと「持続可能な開発目標（SDG）」を通じた発展、国際保健、気候変動、海洋ごみ、デジタル化された経済を支える機関、金融と社会政策、そして社会の包容度の変化に関連する高齢化社会、の原動力となる、自由貿易とイノベーションを優先するだろう。

その他の課題は、低所得国における債務の持続可能性や透明性、グローバル・インバランス、金融規制と監督における市場の分断化のような、共有型成長の為のセーフガードである。技術革新は、国際租税、金融革新(暗号資産を含む)、そして開発への影響などの分野に包含的な影響を与える。マネーロンダリング、テロリストへの資金援助、拡散行為への資金供与という、標準的な課題もまた議論されるだろう。

この広範で、厳しい、革新的なアジェンダで、首脳たちは実の伴った成功のサミットを作り出すべきである。貿易摩擦は恐らく議題に挙げられるのであろうが、貿易が成長と繁栄の基盤であり、ルールに基づいていなければならない、ということを確認することだけでなく、貿易をデジタル時代へ導く為の安倍首相の「大阪トラック」をも支持するだろう。気候変動対策や海ごみ除去を通じた海の清掃、廃棄物管理という課題は、メンバーたちが各々の国の状況にあって、自らが選好する環境問題に関するアプローチにコミットすることにより、皆が共有する、環境的なショックの高まりに対する脆弱さを相殺することができるという意味で重要な成果となりうる。

首脳たちは、高齢化社会、持続可能な経済の促進、人間の厚生と保健、労働生産力、社会福祉における G20 の革新的アジェンダに乗り出すだろう。彼らは人間の厚生と保健、より広い「持続可能な開発目標」、長期的な開発目標としてのユニバーサル・ヘルス・カバレッジのサポート、栄養、そして抗菌剤耐性、マラリア、結核・ポリオ、あるいは国際保健規則と WHO の核心たるところに改善をもたらすこととなるだろう。また、職場での男女平等、起業家精神とビジネスリーダーシップ、あるいは社会エコシステムの広がりによる女性の社会的な強化、という課題における進展も待ち構えている。

G20 の税における確固たる成功は、デジタル課税をめぐる複雑さを今後の課題として取り入れることによって、更に強固になるだろう。質の高いインフラ投資のための意欲的な方針が現れるだろう。汚職行為防止のイニシアチブも現れ、ひょっとしたらより広い経済犯罪にまで及ぶかもしれない。テロ集団のグローバルネットワークによって行われる、G20 メンバー国とそれ以外の国々の人々をターゲットにした攻撃がアジアで増大する中、テロに対する真剣な対策も再び生じ得るだろう。

・ジョン・カートン G20 リサーチグループ ディレクター

G20 リサーチグループ、G7 リサーチグループ、グローバルヘルス政策プログラムのディレクター、BRICS リサーチグループの共同ディレクターで、トロント大学のマンク国際問題研究所のトリニティカレッジに本拠地を置く政治学教授。上海外国語大学 国際関係学部 客員教授、広東外語外貿大学の広東国際戦略研究院の著名なフェロー。

著書に *G20 Governance for a Globalized World* (「グローバル化が進む世界のための G20 ガバナンス」) 他。

@jjkirton

[www.g20.utoronto.ca](http://www.g20.utoronto.ca)